

# 角島他

今瀬剛一

千年楠

秋風や楠の大樹の傷だらけ  
霧流れ去りたる楠の大樹なり  
棚田より大海へ水落とすなり  
なだらかに海へと続き紅葉山  
逃れたき思ひもありて蛇穴に  
風一号高きより水の音

入日

さはやかや海に夕日を吸ふ力  
海へ入る秋日次第に己れ消え

土井ヶ浜遺跡

頭蓋骨並べられたる枯野かな  
百骸九竅ばらばらにあり寒し  
露けくて髑髏は髑髏愛すなり  
よく喋る人ゐて寒き骸たち  
露の夜の骸も古りてゆくばかり

角島灯台

一身も灯台も秋風の中  
長き夜の灯台怠けたくなりぬ